

# 西洋なし (ラ・フランス)

発芽 展葉 開花始 満開 落花 収穫盛  
3.25 4.18 4.22 4.26 5.2 10.11

平年値 (東根市笠岡) 北村山農業技術普及課調査

散布時期	適用病害虫名	散布薬剤名及び散布濃度 (薬液100ℓ当たり)	農薬使用基準		10a当たり 散布量	注意事項 (収穫前日数 総使用回数)を表す	散布日 (月/日)	使用薬剤	使用 濃度
			収穫前 使用時期	総使用 回数					
休眠期	胴枯病	1. パッチレート	原液	剪定時及び 病患部削り 取り直後	塗布は 3回以内	1. 輪紋病のいは皮病斑や胴枯病斑が枝幹部にあるので、粗皮削りを必ず行い、病斑部を削り取り、胴枯病の病斑部へ塗布する。又、削り取りができない場合でも病斑部への塗布は必ず行う。 2. 胴枯病の進行した枝は切除し、園外に持ち出し処分する。			
3月下旬～発芽前	ハダニ類 越冬病害虫 輪紋病 胴枯病	1. ハーベストオイル 2. 石灰硫黄合剤 又は、 トップジンM水和剤	(98ℓ) (石灰硫黄合剤使用濃度) 50倍(2ℓ) 10倍(10ℓ) 1,000倍(100g)	発芽前 発芽前 前日まで	300ℓ - 6回以内	1. 胴枯病の見られる園は石灰硫黄合剤を使用する。先にハーベストオイルを溶かしてから石灰硫黄合剤を混用し直ちに散布する。 2. 前年カイガラムシ類幼虫の発生した園では、アブロードフロアブル 1,000倍(収穫30日前、2回以内)を加用する。			
4月下旬 (開花直前)	黒斑細菌病 心腐れ症(胴枯病菌) シンクイムシ類 ハマキムシ類	1. デランフロアブル 2. サムコフロアブル10	1,000倍(100cc) 5,000倍(20cc)	60日前まで 前日まで	4回以内 3回以内	1. デランフロアブルは、散布時間により薬斑が出る場合があるので乾きやすい時に散布する。			
4月下旬(1回目)	ナシヒメシンクイ	ナシヒメコン		10a当り100本を設置		詳細は2ページを参照			
5月上旬 (満開10日後)	黒斑細菌病 心腐れ症(胴枯病菌) (シンクイムシ類) (ハマキムシ類)	1. デランフロアブル	1,000倍(100cc)	60日前まで	4回以内	1. アブラムシ類発生園ではウララDF 2,000倍(収穫14日前まで、2回以内)を加用する。 2. シンクイムシ類、ハマキムシ類発生園ではフェニックスフロアブル 4,000倍(前日まで、2回以内)を加用する。 3. 胴枯病は、この時期から胞子の飛散が始まるので防除間隔をあけないよう注意する。			
<b>この回以降の散布は殺虫剤解禁後とする</b>									
5月中～下旬	輪紋病 胴枯病 シンクイムシ類 アブラムシ類 カメムシ類	1. オキシラン水和剤 2. ペンレート水和剤 3. ダントツ水溶剤 4. (バイカルティ)※2	600倍(166.6g) 2,000倍(50g) 2,000倍(50g) 1,000倍(100g)	3日前まで 前日まで 前日まで -	9回以内 4回以内 3回以内 -	1. 胴枯病の萎凋枯死花そうや、枯死枝を除去し、焼却する。 胴枯病患部の削り取り痕や太枝の切り口にパッチレート(せん定時及び患部削り取り直後、3回以内)を塗布する。			
6月上旬	輪紋病 胴枯病 アブラムシ類 (シンクイムシ類)	1. スクレアフロアブル 2. ウララDF 3. (バイカルティ)※2	3,000倍(33.3cc) 2,000倍(50g) 1,000倍(100g)	前日まで 14日前まで -	3回以内 2回以内 -	1. 黒斑細菌病の果実や枝は徹底して切除して処分する。 2. シンクイムシ類発生園ではウララDFに替えてスクウトフロアブル※1 2,000倍(前日まで、5回以内)を散布する。			
6月中旬	輪紋病・胴枯病 シンクイムシ類 カメムシ類 アブラムシ類 ハダニ類	1. アビオン-E(展着剤) 2. ペンレート水和剤 3. ダントツ水溶剤 4. ダニコングフロアブル 5. (バイカルティ)※2	2,000倍(50cc) 2,000倍(50g) 2,000倍(50g) 2,000倍(50cc) 1,000倍(100g)	前日まで 前日まで 前日まで -	4回以内 3回以内 1回 -	1. この時期より雨が多い場合は輪紋病の感染が多くなるので散布間隔をあけないよう注意する。			
6月下旬	輪紋病 シンクイムシ類 カメムシ類 ハダニ類	1. アビオン-E(展着剤) 2. インターフロアブル 3. ダントツ水溶剤 4. ダニコングフロアブル	2,000倍(50cc) 5,000倍(20cc) 2,000倍(50g) 2,000倍(50cc)	7日前まで 前日まで 前日まで -	3回以内 3回以内 1回 -				
7月上旬	輪紋病 シンクイムシ類 カメムシ類	1. アビオン-E(展着剤) 2. ハレード15フロアブル 3. テルスターフロアブル※1	2,000倍(50cc) 2,000倍(50cc) 3,000倍(33.3cc)	前日まで 前日まで -	2回以内 2回以内 -				
7月中旬	輪紋病 ハマキムシ類 シンクイムシ類 コナカイガラムシ類若齢幼虫	1. アビオン-E(展着剤) 2. オキシラン水和剤 3. ダイアジノン水和剤※3 4. (バイカルティ)※2	2,000倍(50cc) 600倍(166.6g) 1,000倍(100g) 1,000倍(100g)	3日前まで 14日前まで 前日まで -	9回以内 6回以内 -	1. シンクイムシ類の発生が見られる園では防除間隔があかないよう注意する。 2. ナリアWDGはルレクチュエの果実に薬害が生じるおそれがあるので、混植園ではファンタジスタ顆粒水和剤3,000倍(前日まで、3回以内)に替えて散布する。 3. 降雨が続く場合や強い降雨の後は、次回散布まで間隔をあけない。			
7月下旬	輪紋病 シンクイムシ類	1. アビオン-E(展着剤) 2. ナリアWDG 3. ダントツ水溶剤	2,000倍(50cc) 2,000倍(50g) 2,000倍(50g)	前日まで 前日まで -	3回以内 3回以内 -				
7月下旬(2回目)	輪紋病 シンクイムシ類 アブラムシ類 カイガラムシ類 ハダニ類	1. アビオン-E(展着剤) 2. オキシラン水和剤 3. オリオン水和剤40 4. マイトコーネフロアブル 5. (バイカルティ)※2	2,000倍(50cc) 600倍(166.6g) 1,000倍(100g) 1,000倍(100cc) 1,000倍(100g)	3日前まで 3日前まで 前日まで -	9回以内 2回以内 1回 -	1. カメムシ類の発生園ではオリオン水和剤40に替えて、テルスター水和剤※1 1,000倍(前日まで、2回以内)を散布する。			
7月下旬	輪紋病 胴枯病 シンクイムシ類 カメムシ類	1. トップジンM水和剤 2. オキシラン水和剤 3. モスピラン顆粒水溶剤 4. (バイカルティ)※2	1,500倍(66.6g) 600倍(166.6g) 2,000倍(50g) 1,000倍(100g)	前日まで 3日前まで 前日まで -	6回以内 9回以内 3回以内 -				
8月上旬	輪紋病 シンクイムシ類 ハマキムシ類 (ハダニ類)	1. オキシンドー水和剤80 2. バイスロイドEW※1	1,200倍(83.3g) 2,000倍(50cc)	3日前まで 7日前まで	9回以内 2回以内	1. りんごつがるの隣接園では8月5日頃までに終了する。(オキシンドー水和剤80はりんごで収穫14日前まで) 2. ナシヒメシンクイは桃、スモモなどの心折れが見られる場合は特に注意し、8月から9月中旬まで散布間隔を10日以上開けないようにする。 3. ハダニ類の発生がみられた場合はコロマイト水和剤2,000倍(前日まで、1回)を加用散布する。コロマイト水和剤はおとうとう、ももに登録がないので飛散させない。 4. バルコート水和剤は番桃種、ルレクチュエに薬害のおそれがあるので飛散させない。			
8月中旬	輪紋病 シンクイムシ類 カメムシ類	1. フリントフロアブル25 2. バリアード顆粒水和剤	2,000倍(50cc) 2,000倍(50g)	前日まで 前日まで	4回以内 3回以内				
8月下旬	輪紋病、胴枯病 シンクイムシ類	1. トップジンM水和剤 2. エクスレールSE	1,500倍(66.6g) 5,000倍(20cc)	前日まで 前日まで	6回以内 3回以内	1. 早生種(オーロラ等)、中生種(バラード等)はトップジンM水和剤に替えてオキシンドー水和剤1,200倍(3日前、9回以内)を使用する。なお、他樹種への飛散に注意する。			
9月上旬	輪紋病 シンクイムシ類 カメムシ類	1. オキシンドー水和剤80 2. アグロスリン水和剤※1	1,200倍(83.3g) 1,000倍(100g)	3日前まで 前日まで	9回以内 3回以内	1. ナシヒメシンクイの発生、産卵時期なので、散布むらのないよういていねいに散布する。			
9月中旬	輪紋病 シンクイムシ類 カメムシ類	1. ファンタジスタ顆粒水和剤 2. アグロスリン水和剤	3,000倍(33.3g) 1,000倍(100g)	前日まで 前日まで	3回以内 3回以内				
9月下旬	輪紋病 シンクイムシ類 カメムシ類	1. ストレイド顆粒水和剤 2. バリアード顆粒水和剤	1,500倍(66.6g) 2,000倍(50g)	前日まで 前日まで	3回以内 3回以内	1. 薬害防止の為、高温時(25度以上)の散布は避ける。 2. ストレイド顆粒水和剤は日本なしに登録がないので飛散させない。			
収穫後	黒斑細菌病	1. アビオン-E(展着剤) 2. ICボルドー412	2,000倍(50cc) 30倍(3.3kg)	前日まで -	3回以内 2回以内	1. 収穫が終わっていない他樹種へ飛散させない。			
落葉後	越冬病害虫	1. 石灰硫黄合剤	10倍(10ℓ)	発芽前	300ℓ				

収穫前使用時期で「前日」とは24時間前である。 オートサイド水和剤80、キャブレート水和剤、オキシラン水和剤などキャプタンを含む剤の使用基準は合計で9回以内である。 オキシラン水和剤、オキシンドー水和剤80、キシンドーフロアブルなど有機銅を含む剤の使用基準は合計で9回以内である。※1 合成ピレスロイド剤は蚕毒・魚毒が強いので、桑園・養魚池、河川などの近くでは絶対に使用しない。  
※2 バイカルティは、日持ちの向上が期待できる。

## 西洋なし(ラ・フランス)